

今井館ニュース



Imaikan News



第 65 号

2026 年 7 月 31 日発行

古いものと新しいもの

鴨下 顕彦

第 64 号で「東洋文庫」が一昨年 100 年を迎えたことを伺った。今井館と同じ文京区の地に、昨年 100 年を記念したもう一つの集まりがある。1925 年に矢内原忠雄らが始めた東大聖書研究会（東大聖研。創設当時は帝大聖書研究会）である。東大聖研もまた、小さな継承と出会いとの積み重ねによって続いてきた。私は大学生の時に父に勧められて通い始めた。当時は杉山好先生から、川中子義勝先生に顧問が変わったころ。高橋三郎先生の聖書集会（現在は渋谷聖書集会へと交わりが受け継がれている）の友人で、若くして世を去った橋戸信雄君、大学の先輩で大きな支えを頂いた泉守彦さんのことを思い起こす。川中子先生には 40 年近く会のご指導をいただき、聖書の読み方や詩、思想について、信仰を前提とせず、マナーをもって学び合うという会の基本的な性格を教えてください。ご定年後、2018 年から顧問をお引き受けしてきたが、この 3 月に、100 年を記念する文集を皆で出すことができた。（『東大聖書研究会 100 周年記念文集』）

文集で特に心に残ったことが二つある。1938 年に帝大聖書研究会は解散されるが、矢内原の終講の辞、イザヤ書の力ある講義を聞かれた中沢洽樹先生が、「この書を生涯の研究課題にしよう、と心に誓った」との消息を、月本昭男先生が紹介くださった。また、東大聖研は韓国の方の参加にも励まされてきたが、その一人の趙得煥博士は、文集を韓国無教会の方たちにも取り次いでくださった。矢内原はローマ書講義を通して民族の和解を願ったが、今日もなおその課題は続いている。

私たちも 4 月からローマ書を読み始めた。東大聖研は、これまで一つの発表や聖書箇所について、



東京大学田無農場の大賀蓮（2026 年 6 月著者撮影）

時間をかけて共に考えることを大切にしてきた。最近是小グループでの対話も取り入れ、初参加の人も自分の思いや問いを語れる場をつくろうとしている。古いものと新しいもの。よいと思われるものはどちらも大切にしたい。

『今井館ニュース』に、「とちぎ聖研」の名前が見えなくなったことを、半分寂しさを覚えながらも、私は子どもの頃の思い出を振り返る。新設された自治医科大学附属病院に赴任した医師たちの家族を中心に、高橋三郎先生主筆の『十字架の言』読書会があって、クリスマス会には、村松梅太郎さんに先立って宇都宮で伝道された竹内正一先生が来てくださったこと、竹内先生ご夫妻にはその後調子を崩した時に大変お世話になったこと……。思い出も主にあって感謝と今を生きる力へと変えられる。ニュースレターもまた、互いの祈りや歩みを分かち合い、人と人とのつながりを通していくことができる。神による完成を望みつつ、自らに与えられている召しを受け止めて、共に新しい歩みを続けてゆきたい。

（かもした あきひこ

東大聖書研究会、渋谷聖書集会に連なる）

目	次
表紙・巻頭言.....1	学校・学寮だより.....7
目次・内村鑑三の言葉・ 表紙について・発行趣旨.....2	各種行事のご案内.....10
理事長就任のご挨拶.....3	各地からの報告／ 定期集会・地域特別集会等案内.....11
内村家の系図.....4	事務局便り.....15
第 40 回 内村鑑三研究セミナー 報告.....6	維持会員募集のお知らせ・編集後記.....16

内村鑑三の言葉

「美はしき名二つ」

二つの美はしき名あり、其一は基督にして其二は日本なり、前なる者は理想の人にして後なる者は理想の国なり、吾人彼と是とのために尽して吾人の生涯は理想的ならざるを得ず。

『聖書之研究』9号（1901年5月20日）、
『内村鑑三全集』9巻、168頁

内村の生涯を流れる二つの「J」（JesusとJapan）の水脈の遙かなる源（みなもと）はここにある。それはまた、日本近代という新たな歴史を開く、明治から昭和初期までの時代と、日清・日露・第一次世界大戦など、三つの国家戦争下にあった未曾有の困難な世界を生きる一キリスト者の福音の流れゆく大河でもあった。「美はしき」日本とは、ナショナリズムの濁流からもっとも遠い、「基督」とともにある「日本」=「世界」（I for Japan; Japan for the World…）であり、非戦論から戦争絶対廃止論への道でもある。それは「あなたはどこにいるのか」（「創世記」3：9）と問われつつ、この戦争の新世紀へとつづいている。

（選・解説 今井館教友会監事
小林孝吉）



朝顔（秀村弦一郎画）

表紙について

本号の巻頭言は維持会員の鴨下顕彦さんに書いていただいた。鴨下さんは冒頭に、土肥祐子さんによる前号の巻頭言が東洋文庫の創立百年をめぐるものであったことに触れ、東洋文庫や今井館と同じく東京大学も文京区にあり、そこで矢内原忠雄が「帝大聖書研究会」を始めたのも約百年前であった、と書き出しておられる。今から百年前というと、大正から昭和に移る頃だが、振り返ってみると実はそれは歴史のきわめて大きな転換点であった。写真の説明にある「大賀蓮」とは大賀一郎博士が生き返らせた古代蓮、文中にでてくる「父」とは小児科医鴨下重彦先生である。それぞれに内村鑑三や矢内原忠雄とのゆかりが深い。それにしてもこの蓮の花の、なんという美しさであろう。（TK）

『今井館ニュース』発行趣旨

NPO法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教会の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする（定款第3条）。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として『今井館ニュース』発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする（定款第5条3項）。

理事長就任のご挨拶

月本 昭男



2022 年度より理事長をおつとめくださった加納孝代先生のあとを受け、本年 7 月 6 日開催の臨時理事会において、月本昭男が新理事長として選任されました。

以下、自己紹介も兼ねて、理事長就任のご挨拶をさせていただきます。

戦後、故あって養蜂を生業とした両親のもとに生

を享けた私は、少年期、両親が所属したプリマス・ブレズレン系の集会でキリスト教信仰を培われました。中学・高校はキリスト教主義の新島学園（安中市）。大学では、全国に吹き荒れた大学闘争の嵐に巻き込まれましたが、課外の聖書研究会、キリスト教夜間講座などで無教会の先生方の聖書講義を伺い、前田護郎主宰の世田谷日曜聖書講座に連なり、現代社会において聖書を学ぶことの意義に少しずつ目覚めてゆきました。教派にとらわれない大学キリスト教青年会の寄宿舎生活は、キリスト教に対する視野をも広げてくれました。

そうした経緯を経て私は聖書研究を志し、新約聖書をしっかり理解するためにまずは旧約聖書学を専攻し、ドイツ留学時には、旧約聖書の歴史と文化の背景となる古代オリエント世界にまで足を踏み入れました。それによって旧約・新約聖書の理解が進み、キリスト教信仰が深まったのか、と問われましたら、忸怩たる思いを禁じえませんが、さいわい、帰国後、2 つのキリスト教大学で旧約聖書学を担当する機会に恵まれ、ささやかな研究成果の刊行も許されました。集会は、1980 年、前田護郎逝去に伴って新たにはじまった経堂聖書会に連なり、聖書に基づく信仰を学んでいます。

今井館教友会に関しましては、中根時代に理事長をつとめられた新井明先生、事務局長であった福島穆氏などから多少の事情は伺っていました。また、

関根正雄、高橋三郎両先生の主導のもと、1992 年に発足し、2016 年より月本が責任の一端を負う無教会研修所の事務局は、本駒込に移転するまで今井館におかれていました。本駒込移転後の今井館との直接的な関わりは、2024 年に副理事長を仰せつかってからですので、加納孝代名理事長の後任として、私がその任に相応しいとは思えませんが、新理事として山下明氏（新宿集会）、野々瀬浩司氏（慶応大学）のお 2 人に加わっていただき、4 名の常務理事は引き続き今井館の諸々の業務に携わってくださいます。さらに、加納前理事長と川中子義勝前副理事長は相談役として、また「今井館ニュース」の編集委員としてお力添えをいただけますので、皆さま、どうぞ、ご安心くださいますように。

今井館教友会は、これからも、西永頌前々理事長、加納前理事長の敷かれた路線を進んでゆきます。昨年には『内村鑑三のことば』を、今年には『内村鑑三詩集 — 信仰詩・訳詩抄 —』を編ませていただきましたが、内村鑑三に連なる信仰者の残した文章も含め、手軽に手に取っていただける文集を継続的に編集してゆきたく存じます。また、2030 年には内村鑑三没後 100 周年を迎えますので、『内村鑑三事典』（仮）の刊行をはじめとする記念事業の準備にも取り掛かる所存です。つきましては、万事、皆さまのご意見とご理解をいただきながら、進めてゆきますので、引き続き、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

（つきもと あきお
今井館教友会理事長・経堂聖書会）



ヤマユリ
（秀村弦一郎画）

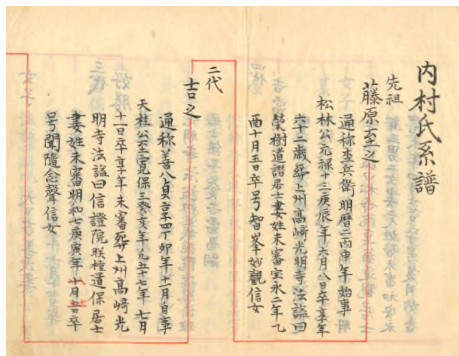
内村家の系図

藤田 豊

内村鑑三の長男祐之の妻、美代子氏(1903-2003)は『晩年の父内村鑑三』(1985 年、教文館)の最後に、内村家の系図を掲載している。この系図を掲載できた喜びを、同書中の「鑑三の背景」で「わが家の古文書ともいえるべきものは、父の伝記を書くといわれる鈴木俊郎さんの求めに応じてお貸ししていたのが戦災で失われてしまったからである。私はこの書きものの終わりに何とかして少し詳しい系図を入れたと思っていたので、その願いが神様に届いたようにさえ感じた」と述べている。

『晩年の父内村鑑三』の系図は内村鑑三の従兄弟、内村金爾の家に伝わっていたものをもとにして作られた。祖先に関しては、教文館の『内村鑑三信仰著作全集』25 巻の系図より、はるかに精確なものになっている。逆に内村の子孫に関しては当然、教文館版全集が詳しい。なお、岩波の 1980 年版の内村鑑三全集には系図は収められていない。

筆者は今井館が本駒込に移転以降、書庫内の資料を整理しているが、時々、驚くべき資料に邂逅し、資料整理の苦労が吹き飛ぶことがある。その一例が鈴木俊郎氏(1901-1982)の没後、縁者の方から託された資料群である。鈴木氏が『内村鑑三伝 米国留学まで』(1986 年、岩波書店)執筆のために用意した資料であろう。若き日の内村が書いた未発表の自筆ノート等、内村研究を深める多くの資料が収蔵されていた。その中に、美代子氏が戦災で失われたと語っていた系図が含まれていた。しかも、系図は一つではなく、三種類存在している。



「内村氏系譜」の氏名の後ろには、基本的に 通称 幼名 没年埋葬地 法諡(ほうし)=戒名 妻の名 旧姓 没年 戒名 子供の情報が記されている。

「内村氏系譜」と題した八葉のもの、初代から七代までの業績を記した 30 頁にわたる詳細な年譜、同じく初代から七代までの八葉にまとめた略年譜である。

「内村氏系譜」は、美代子氏が掲載した系図とほぼ同じであるが、さらに詳細である。内村家のルーツを知る貴重な資料であるので、主要部分を次頁に系図にして紹介する。鑑三以降の系譜に関しては教文館版全集の系図等によって補った。

「内村氏系譜」八葉の 7 枚目には 8 代目の幼称に鑑三の名がある。名前の部分が某となっているのは元服以降別の名前をつける慣例からであろう。内村の兄弟として知られている達三郎 道治 宜子 順也の他に 城次 小松 剛作という早世の兄弟がいたこともわかる。

「内村氏系譜」は誰が書いたのでしょうか。書かれた和紙の紙質は同じであるが、筆跡は後半で変わっている。前半は鑑三の祖父長成、7 枚目の小松の名前以降は、父宜之であろうか。ここから明らかに筆跡が異なる。8 枚目ではさらに筆跡が異なってくる。鑑三の筆ではないので、祐之以降の誰かが加筆したのであろう。また、注意してみると、1 枚目の 2 代吉之の妻の没年に赤字で訂正が入っている。

「内村氏系譜」とは別に初代から七代までの業績を記した 30 頁にわたる古文書は、文字おこしが終わっている、いずれ紹介できればと思っている。鈴木俊郎氏は上掲『内村鑑三伝』で 2 代目吉之の享年を 57 歳と記しているが、「内村氏系譜」にある末審(末詳)が正しい。もしこの初代から七代までの業績を記した古文書を読んでいれば、勤続 57 年であったことが解ったはずである。内村家は鑑三達に英語を学ばせる等、開明的な視点を持っていた。この古文書は先進的な思想を形成した人物として、父親の宜之だけでなく、幕末に、祖父の長成が西欧人との対応にあたった働きが大きかったことを、うかがわせる貴重な資料である。

(ふじた ゆたか 今井館教友会理事)

内村家の系図

*作成協力

文字分析：岡崎みのり
レイアウト：廖本恩

凡例

【何代】

説明

息子

娘

妻

＝

婚姻関係

養子縁組

()

補足説明

【先祖】藤原至之（通称 李兵衛）

明暦2丙申年始事
松林公元禄13庚辰年6月8日卒
享年年62歳 葬上州高崎光明寺
法諡曰栄樹道讃居士

妻 姓未審
宝永2年乙酉10月5日卒
卒号智峯妙観信女

【二代】吉之（通称 善八貞享）

通称善八 貞享4丁卯年11月自事
(自事＝自分事→自分一身のこと)
天桂公至寛保3癸亥年 迄57年
7月11日卒 享年未審
(鈴木俊郎氏は57歳としているが勤続年数)
葬上州高崎光明寺
法諡曰信證院朕櫓道保居士

妻 姓未審
明和7年庚寅年10月5日卒
号聞随念聲信女

【四代】吉當（幼名 仙之助 後改 善八）

実蘆田澤右衛門宣清二男
文政8年乙酉年12月29日卒
享年89歳 葬上州高崎光明寺
法諡曰松壽院真翁道観居士

妻 姓未審
文化12乙亥年6月6日卒
号観明院蓮阿妙華大姉

妻 姓未審
安永4乙未年4月27日卒
号隻月妙香善女

【三代】好勝（通称 彌三郎）

延享元甲子年8月11日卒 享年18歳
葬上州高崎光明寺
法諡曰義照院涼風清雅居士
無子 養吉當為嗣

【五代】吉保（通称 丑之助）

文政13庚寅2月27日卒 享年50歳
葬上州高崎光明寺
法諡曰解脱院松巖義応居士

妻 某氏
再嫁鹿毛氏二男
有三男三女

【六代】長成（幼名 五郎次郎 後改 善八）

実大嶋仁左衛門源則忠二男
席至数槍奉行
慶応元乙丑年閏5月23日卒
享年53歳 葬武州江戸小石川是照院
法諡曰普明院徳叟常隣居士

妻
吉保二女

妻 竹本氏
後有故離別 再婚某氏
享保卒

なか
ゆき
まさ
百之
忠太

左記は『晩年の父内村鑑三』より

妻石原氏（通称はな）
慶応元乙丑年6月25日卒
号妙智院實相守貞大姉
同葬是照院

【七代】宜之（通称 金之丞 改名 水男）

天保3壬辰年
12月18日生
於高崎城内北郭

妻 関氏
安政4丁巳年11月18日卒
享年18歳
号智徳院一運貞馨大姉

妻 後大戸氏
当時生三男次男

道治 明治4年9月24日生
上州高崎柳川町

道治 明治4年9月24日生 上州高崎柳川町

剛作 早世 明治8年9月26日没

小松 早世 明治2年生 於陸前国牡鹿郡石巻官舎

某 幼称達三郎 元治元11月8日生 於上州高崎死

某 早世 俗称城次 文久3癸亥年9月22日卒 當歳 号秋峯幻夢童子

【八代】某（幼称 鑑三）

文久元辛酉2月13日生
子武州江戸小石川丸山邸

嘉寿子
1891. 4. 19没

1884. 3. 28～
1889. 05. 14
浅田氏（タケ）

（岡田）シズ
1945. 2. 8没

信（ノブ）
ルツ

1894. 4. 19生；1912. 1. 2没

祐之
1897. 11. 12生

右記は教文館版で補った

正子

1925. 9. 22生

桂子

1928. 7. 13生

博子

1930. 1. 1生

智子

1931. 12. 28生

篤

1938. 9. 5生

紀子

1941. 11. 28生

第 40 回内村鑑三研究セミナー報告

2026 年 6 月 12 日（土）14 時より立教大学池袋キャンパスにて第 40 回内村鑑三研究セミナーが開催された。
ご発表の要旨は以下の通りである。（岩野 祐介・いわの ゆうすけ 『内村鑑三研究』編集委員）

趙凡熙「内村鑑三の霊性の構造—靈魂、靈、靈性」

本発表は、『内村鑑三全集』に記録された「(靈)魂」、「靈」、「靈性」に着目し、内村の霊性の構造を考察する。第一部では、「靈」が神との交わりや命の根源に関わる一方、「(靈)魂」は自我や人間存在と結びつき、靈よりも肉体・物質的存在に近い性格を帯びる包括的概念として用いられる可能性を示す。第二部では、「(靈)魂」に振られた「たましい」「れいこん」の二種のルビのデータを、KH-CODER というソフトウェアに入力し、共起ネットワーク図を生成した。分析した結果、「たましい」は神聖性、内面性があり、聖書引用時によく使われ、英語の spirit に親和性がある。一方、「れいこん」は英語の soul に親和性があり、理論的・論争的、また日常的・外面的文脈と結びつく傾向が見られる。この分析から、「大和魂」が「the soul of Japan」と「the spirit of Yamato (Japan)」の二重構造を持つ可能性を提示する。第三部では、「真空」の比喻、「武士道に接木された基督教」、「二つの J」から検討し、「内村鑑三の霊性＝大和魂＋キリスト教の靈」という構造の提示を試みた。

（チョウ ハンキ 北海道大学文学院修士課程修了）



山口真穂「内村鑑三門下の視聴障害学生の点字印刷事業—好本督・秋元梅吉を中心に」

本稿は、内村鑑三門下の無教会青年伝道者である好本督や秋元梅吉ら視覚障害当事者が、1924 年に日本初の点字旧約聖書全巻を完成させた経緯を解明するものである。内村鑑三は 1900 年初頭の好本と左近允孝之進の点字活版新約聖書の刊行時から彼らの支援者であったが、1910 年代に始まる旧約全巻刊行の際もアメリカ留学時の特別支援学校勤務経験から周縁に立つ彼らを励まし、自身の刊行書や活版印刷費用を提供した。好本が活動の基盤を築き、秋元は当事者の仲間と共に分業体制で校正や製版等の困難を突破した。当時近代日本の視覚障害者は教育の欠如や障害罪業論的偏見に晒されていたが、点字聖書の刊行は彼らを周縁的な「受益者」から「教会の運営者」へと転じさせ、障害者の自立と権利形成の支柱となった。当事業は英米聖書協会の支援も得て会派を超えたエキュメニカルな公共財出版プロジェクトとして機能した。その影響は東・東南アジア各地にも及び、視覚障害者を主体とした伝道ネットワーク形成の基盤となった。

（やまぐち まほ

早稲田大学文学部研究科修士課程修了）



右上写真：趙凡熙氏と山口真穂氏

左下写真：当日の会場の様子

学校・学寮だより

愛真高校

今年度は 18 名の新入生を迎え、生徒数が少し増加しました。久しぶりに女子生徒の入学者数が男子生徒を上回ったことに伴い、ここ数年使用していなかったもう一つの女子寮も再び活用することとなりました。本校では異学年による 2 人部屋を基本としているため、女子の上級生が少ない今年度は、2・3 年生の女子生徒全員が 1 年生と同室で生活するという、近年にない部屋編成となっています。

3 年生は今年も 7 泊 8 日の日程で沖縄を訪れ、平和学習に取り組みました。台風の影響を受けながらも、日程はおおむね予定どおり実施することができました。一方、例年訪問している辺野古の埋め立て現場については、現地の方々の助言を受け、今回は車中から見学するにとどめ、別の場所でお話を伺いました。3 月に発生した痛ましい事故を受け、沖縄における平和学習の縮小を危惧する声もありますが、本校では安全面について再検証を行った上で、今後も沖縄修学旅行を平和学習の重要な機会として大切に継続し、その内容の充実を図っていきたいと考えています。



修学旅行 伊江島にて

本校の平和学習では、現地で実際に見聞きし、その地に生きる方々の声に直接耳を傾けることを何よりも大切にしてきました。とりわけ、社会の中で十分に顧みられることの少なかった声に真摯

に向き合い、自ら見て、考え、対話を重ねる中で、「平和とは何か」「人間の尊厳とは何か」を問い続ける姿勢を育みたいと考えています。こうした学びを礎として、生徒一人ひとりが現実と誠実に向き合い、他者とともに平和を築く人へと成長することを願っています。
(校長 栗栖達郎)

愛農学園

愛農高校は 2 月 28 日に第 60 期生の卒業式を終え、24 名の卒業生を送り出しました。そして 4 月 11 日には第 63 期生の入学式を行い 25 名を迎え入れ、4 月 15 日には専攻科の入校式を行い 5 名の専攻科生が丘に戻ってきてくれました。

特筆すべきは、今まで 1971 年から 2025 年まで 54 年間女子寮生の生活を支え続けてくれた女子寮に 3 月でさようならをして、4 月からはすぐ隣に新設された女子研修宿泊施設に暮らしの場を移動したことです。女子生徒の皆さんの生活は春から全く別の形をした建物で始まり、様々なハード面の変化を受け入れつつ、話し合いを密に行い新しい宿舎にも少しずつ慣れていってくれています。

3 月に卒業していった 60 期生のクラスカラーを、担任をしてくださっていた永田先生がうまく表現してくれていますので、この場をお借りしてご紹介させていただきます。このような共同体でこれからの愛農生もあって欲しいと願うものです。



全校体育祭

「60 期はよく『向き合う』、『受け入れる』、『対話する』という言葉を使っていました。これらは『我慢する』とは大きく異なります。何か嫌なことやモヤモヤすることが起きた時、自分を犠牲にしたり、我慢したりするのではなく、相手にも『向き合ってもらおう』、『受け入れてもらおう』、『対話してもらおう』必要があります。相手にもそうしたいと思ってもらえないとできないことです。それは簡単なことではありません。普段の関係性や、周りからの励まし、もしくはただ待つことが必要かもしれません。60 期はそれらをお互い諦めずにやり続けていました。(中略) 卒業発表前日の夜、お互いに涙しながら感謝を伝え合っていた様子を見て、それぞれに表現は違っても、それはお互いに諦めずに最後まで研磨しあった事への感謝であったのだと感じます。」職員も在校生も学ぶことの多かった 60 期スタイルでした。(校長 泉川道子)

独立学園

当地は四季の変化がはっきりしており、現在梅雨の時期を送っております。4 月は、まだ葉のついていない木の枝越しに、山の地表がはっきり見えていましたが、現在は木の葉がうっそうと茂りすっかり森に変化しています。朝に夕に耳をすますと聞こえてくる鳥の鳴き声。福寿草から始まってカタクリ、ヒメサユリと移り変わる野の花たち。そんな自然を味わいつつ日々が過ぎていきます。

4 月以来、2026 年度も様々な恵みを頂きながら、3 ヶ月あまりを送って参りました。5 月には例年実施される連休キャンプ行事、農家訪問を含め 4 日間の農繁作業など自然や労働に触れながら歩んできました。創立 78 周年記念式が行われた 5 月 23 日には、千葉県流山市市長である井崎義治氏をお招きし「Trust in the Lord (主に信頼せよ)」と題して講演を頂きました。井崎氏は本校の 22 期卒業生であり、市長を 24 年間務めておられます。その経験から、現代社会をこれから生きていこうとしている生徒に向けてメッセージが送られました。市政を担いつつ、ご夫妻でキリスト者としてこれま

で歩んでこられた生き方には、大きな励ましをもらいました。



春の農繁作業

また、3 年生は 6 月 26 日に「18 泊 19 日の東北・北海道への修学旅行」に出発しました。東北では震災や原発などについて学び、北海道ではせたな町にある主に卒業生で酪農を営んでいる農家に分宿し、1 週間あまりの農業実習を行います。この間は、1 年生と 2 年生だけで学校生活が営まれ、畜産や園芸作業等を含めた生活全体の責任を皆で担いながら日々を送ります。

世が騒然とする中、独立学園は自然に囲まれ、静寂の中にあります。植物がゆっくりゆっくりと成長するように、生徒一人一人の成長を願いつつ日々を生きていきます。(校長 後藤正寛)

登戸学寮

当地は今年、春からおだやかで涼しい過ごしやすい日々が続いています。この春七人の新寮生を迎え、新参生が先輩たちを眺めまわし「俺らの学年案外イケてるんじゃないか」と恐れ知らずの animal power を発揮しています。四年生は資料室でオンライン面接を受け続け、八人が次々に内定をいただき、一同喜んでいきます。今後 AI の普及に伴い、この売り手市場の就職状況は不透明のようです。どの時代にまたどの年に生を受けるかによって異なる社会的与件に運、不運を感じます。時代に負けない永遠なるものへの眼差しと何らかの確かさを掴みたいものです。6 月には近隣の方々を招き芸大院生によるコンサートが有志の手作りクッキーのお茶会と共に開かれました。



近隣の方々を招きお茶会コンサート

かつて「ヒトがヒトを生む」生物の複製機構の安定が「最も自然的なこと」(アリストテレス)とされましたが、疲れを知らない AI が自律的に「AI が AI を生む」時代に突入します。これは進化か現生人類の自らの運命を他に委ねる愚行かが問われています。AI の親 J.Hinton は assistant に留まるべく「慈悲深さ」を組み込むよう警告します。

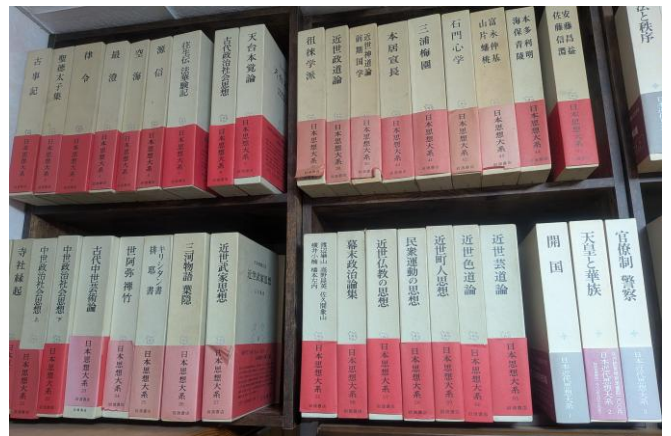
この権力政治の hard power の時代に、山上の説教をそのまま生き抜かれた究極の soft power をあらゆる演算の基礎に組み込めないかと思案します。仲間が当方の箇条書きを動画化しました。「NotebookLM という Google の人工知能を活用した思考補助ツールに…そのまま投げたら、こんな動画「信仰のアルゴリズム：AI の働きの基礎にキリストがインストールされたとき」を返してきました」。Google 検索欄に <https://youtu.be/b8rip-ABcgE> 記入で閲覧頂けます。

議論の繫にジャーゴンを用いながらもほぼ正確に理解した作品が短時間で仕上がりました。われらの外に明確に立つ福音の確かさにこそ救済の歴史は展開されていくのでありましょう。学寮では若者たちは新たに筏を作り多摩川超えて大海原への挑戦に燃えています。(寮長 千葉恵)

春風学寮

いろいろと書きたいことはあるが、どれか一つに絞るとなると、これ、すなわちある無教会の方から 1000 冊に近い莫大な蔵書を寄贈されたことである。初めに図書寄贈の話があったとき、「また無教会関係の図書の寄贈かな」と思いきや、とん

でもなかった。日本、中国、インド、仏教の思想体系に始まり、西欧の哲学者の全集(ソクラテス以前、プラトン、アリストテレス、キケロ、カント、マルクス・エンゲルス、パスカルなど)、日本の思想家の全集(寺田虎彦や湯川秀樹を含む)、近代日本の小説家の全集、日本の古典文学の集大成、有名な英文学者の全集、中国の詩の集大成、果ては江戸時代の御触書まで、春風学寮の小さな空間には収まりきれないほどの寄贈図書であった。寮に入りきれないぶんは現在私の大学の研究室においてあるが、これは好ましいことではない。何とか図書室を建てなければ、といううれしい悲鳴である。写真は、寄贈図書のごく一部(30 分の 1)に過ぎない。



春風学寮に図書館誕生？

ひところ、このような本は見向きもされない時代が続いた。ところが時代は再び変わりつつある。情報のデジタル化が進み過ぎ、出版業界が急速に衰えたため、かえってこのような本の価値が見直されつつあるのだ。寮の学生たちの一部もこれらの本を読みたがる。卒寮を間近に控えた者やすでに卒寮した者は、なぜもっと早く寄贈してくれなかったのかと、恨み節。少数ではあるが読書好きは着実に増えているのだ。

AI がなんでも答えてくれる時代が到来しつつあるがゆえにこそ、これらの本は重要であり、このような本を持つ学生寮には存在意義がある。そこで敢えて問うのだが、どなたか書庫を寄贈してくださる方はいないだろうか。(寮長 小舘美彦)

各種行事のご案内

「第 47 回内村鑑三研究会」のご案内

日 時 2026 年 9 月 21 日（月）敬老の日 14:00～17:00
場 所 今井館聖書講堂（東京都文京区本駒込 6-11-15）
講 師 黒川知文氏（中央学院大学特任教授、湖北パークサイドチャペル主任牧師）
タイトル「関東大震災における賀川豊彦と内村鑑三 — 震災観と終末論」
講 師 小林孝吉氏（文芸評論家）
タイトル「内村鑑三の再臨信仰と現代 — 終末の風景と生命の水の河」
主 催 『内村鑑三研究』編集委員会
参 加 費 1,000 円
申 込 方 法 対面での参加の皆さまは申込み不要です。会場に直接お越しください。ズーム方式で参加を希望なさる皆さまは 9 月 17 日（木）までに下記メールアドレス宛お申込みください。折り返しログイン URL と資料・通信費振込口座情報をお送りします。
岩野祐介 ahl17298@kwansei.ac.jp

「第 38 回無教会全国集会 2026」のご案内

開 催 日 2026 年 10 月 31 日（土）13:30～16:05 （16:25～ 映画上映）
11 月 1 日（日）9:30～17:00
会 場 今井館聖書講堂（東京都文京区本駒込 6-11-15）
主 題 「神を愛し、隣人を愛する」
主 題 聖 句 ルカ 10:29-37
聖 書 講 話 （初日）「混迷の極みの中で — 行ってあなたも同じようにしなさい」飯島信
（二日目）「神の平和と世の平和」木村護郎クリストフ
主 題 講 演 「誤解と分断を超えて — 時代に立ち向かう勇気を」森本あんり
特 別 講 演 「一隅を照らす 中村哲医師の事業とその継承 — パキスタン北西辺境州と東部アフガニスタンでの医療・農業・灌漑事業」村上優
発 題 「上伊那の農地を開墾した朝鮮青年兵をたずねて」竹内恵子
「映画『聴く隣人のいるところ』について」早川嗣
映 画 上 映 （初日）『聴く隣人のいるところ』（監督・早川嗣）
※上映後「自由な対話の時間」（早川嗣監督来席）
参 加 方 法 会場およびオンライン（zoom）
申 し 込 み 『今井館ニュース』65 号同封の「開催案内」、あるいは今井館ホームページをご参照ください。
問 合 せ 無教会全国集会準備委員会 担当：荒井克浩、廣瀬治基
E メール mukyoukaizen@gmail.com
今井館 Tel・Fax 03-6277-5669（Tel は月のみ）；荒井

「無教会研修所キリスト教講演会」のご案内

開 催 日 2026 年 11 月 21 日（土）14:00～16:00
会 場 今井館聖書講堂（東京都文京区本駒込 6-11-15）
参 加 方 法 会場参加（抽選で 30 名）か、あるいは
オンデマンド配信（2026 年 11 月 23 日から 1 週間）のいずれか選択
講 師 宮崎文彦氏（無教会自由が丘集会、千葉大学大学院社会科学研究院特任研究員）。南原繁研究会の幹事を長く勤める。近著に同研究会編『戦争と平和 — 南原繁再考（その 2）』（横濱大氣堂、2025 年）所収の「天の国と地の国・法と政治」
演 題 「南原繁における信仰と政治哲学」（仮題）
聴 講 料 1,000 円（学生 500 円）
問 合 せ 無教会研修所事務局 E メール seishokoza@mukyokaikenshujo.com
申 込 先

各地からの報告

■キリスト教独立伝道会

○総会

日時：2026 年 4 月 29 日（水・祝）13：30～14：30

会場：Zoom によるオンライン開催

○総会後の公開講演会

日時：2026 年 4 月 29 日（水・祝）14：45～16：15

講師：多田義国

テーマ：「キリスト教独立伝道会の伝道精神」

開会礼拝：小舘美彦氏

主日礼拝：吉村孝雄氏 那須容平氏

○238 回関西合同聖書集会

司会：河野登

日時：2026 年 7 月 20 日（月・休）

司会：河野登

講師：松井謙介「高橋三郎召天十五周年・政池仁召天
四十周年『道を備える』」

工藤新三・使徒言行録第 3 回

午後：昼食・感話懇談会

■近畿

○第 22 回近畿地区無教会キリスト集会

日時：2026 年 5 月 9 日（土）午後 1 時

～10 日（日）午後 1 時

会場：関西セミナーハウス

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

主題：「キリストの十字架」

「このわたしには、わたしたちの主イエスキリスト
の十字架のほかに、誇るものが決してあってはな
りません」（ガラテヤ 6:14）

一人一人が「私にとっての十字架」を明確にされ、
今日を生きる力、老いにも死にも打ち勝つ希望が
あたえられますように。

■九州

○福岡聖書研究会・特別集会（Zoom 同時配信）

① 5 月 17 日（日）に香西信氏（岡山聖書集会）を迎
えて、イエスに「相応しい者（マタイ 10:36）」と
して十字架を背負うことの意味を学びました。

② 7 月 26 日（日）に月本昭男先生（経堂聖書会）か
ら Zoom で「メシアの挫折とその後」と題してゼカ
リア書の前半（1～8 章）の講話を伺いました。

* 今年も経堂聖書会の皆様との Zoom による合同
集会をもつことが出来ました。

定期集会・地域別特別集会等案内

●キリスト教独立伝道会

○第 3 回 みんなのバイブルキャンプ

日時：2026 年 8 月 21 日（金）～23 日（日）2 泊 3 日

会場：東京 YMCA 山中湖センター

（山梨県南都留郡山中湖村平野 419）

テーマ：主イエスと共に

講師：香西信、小舘美彦、木村護郎クリストフ

申込先：小舘知子

申込期限：8 月 10 日

E メール：kodatetomoko@gmail.com

●山形

○山形聖書集会

聖日集会：原則毎月第 2・第 4 日曜 10:00～12:00

* 夏期・冬期（8 月・1～3 月）は休会

会場：遊学館、山形テルサ、文翔館

聖書講話：会員順番に担当

代表：白崎良二

○米沢聖書集会

日時：毎月奇数日曜日 10:30～12:30

場所：会員の個人宅（米沢市内）

聖書講義：助川暢（基督教独立学園高等学校元校長）

連絡先：富樫徹

●茨城

○水戸無教会聖書集会

日時：月例集会 10:30～12:00

第 2 日曜 預言書を学ぶ 安昌美

第 4 日曜 マルコによる福音書 萩野谷興

* 8 月は夏休みで休会

会場：南町コミュニティホール

（バス停「南町 2 丁目」下車 徒歩 3 分）

参加費：300 円

連絡先：星野光利

●千葉

○千葉聖書集会

- ① 毎月第 3 日曜日 10:00～12:00
千葉市生涯学習センターで主日礼拝
新約聖書を学ぶ
- ② 毎月第 1 日曜日 13:00～15:30
会員の私宅で旧約聖書を読んでいる
連絡先：広瀬敏行

○逆井（さかさい）聖書集会

日時：毎月第 2 土曜日 10:15～11:45
その後全員参加の談話会 12:30 頃まで
会場：松戸友の会友の家
*ただし現在耐震改築工事のため当面 Zoom 集会
となります。
また、2027 年 3 月 13 日（土）は 今井館聖書講堂にて
集会を開催しますので、どなたでも ご参加下さい。
隔月ごとにエレミヤ書、ヨハネ福音書を学んでいます。
連絡先：西永頌 tatau-n@td6.so-net.ne.jp

●東京

○高円寺東集会

礼拝：第 2・第 4 日曜日 11:00～13:00
会場：今井館第 1 集会室（Zoom 併用）
*「ガラテヤ書」（元高円寺東教会牧師小西芳之
助）、または「黙示録」（石館守三）の講解説教録
音テープを聞いて礼拝、昼食を共にします。
参加費：500 円
連絡先：小西忠雄 t-c-27.konishi@jcom.zaq.ne.jp

○無教会自由が丘集会

日時：毎月第 3 日曜日 10:00～12:00
場所：成城ホール会議室（成城学園前駅）
*対面とオンラインのハイブリッド、メール配信
にて開催しております。
*2026 年度は「マタイ伝」を学んでいます。
連絡先：西村敏樹 bachleipzig98@gmail.com

○『塚本虎二著作集』読書会

日時：毎月第 1 水曜日 10:30～
場所：今井館第 1 集会室
*『塚本虎二著作集』第 7 巻（聖書知識社）を輪読
9 月は第 221 講、以下 1 講ずつ
連絡先：山田光子 higashino2usagi@au.com

○二周会読書会

日時：毎月第 3 金曜日午後 13:00～15:00
場所：今井館第 1 集会室
*白井きく『ブルトマンと共に読むヨハネ福音書』
上、中、下を当番制で少しずつ学んでいます。
現会員数 4 名。
8 月はお休み。
9 月 18 日は上巻 209 頁「復活の時」からの予定です。
連絡先 神谷光子

○駒込キリスト聖書集会

聖日礼拝：毎週日曜聖日 10:00～12:00
聖書講話：「マタイによる福音書」の連続講解
場所：今井館 第 2・3 集会室
*遠隔の方 Zoom 参加可
*お願い：今井館の入り口はセキュリティがかか
っているため 9 時 30 分以降に入口脇インターフ
ォンで「203」「呼び出し」を押してください
HP：集會名で検索可
連絡先：荒井 k_arai2005@ybb.ne.jp

○国立（くにたち）聖書研究会

日時：毎月第 4 日曜日 10:30～12:00
会場：Zoom による集会
*新約聖書と旧約聖書を交互に学んでいます。
旧約聖書イザヤ書は現在 52 章、
新約聖書は 8 月からヨハネ伝を読み始めます。
*レポートは有志数名が交代で担当、毎回全員が
感話で参加。出席者は平均 12 名程度です。
連絡先：加納孝代 takayo@sepia.ocn.ne.jp

○無教会新宿集会

日時：毎週日曜日 10:00～11:45
*原則として旧約聖書と新約聖書を交互に学んで
います。
会場：家庭クラブ会館（渋谷区代々木 3-20-6）
JR 新宿駅南口から徒歩 7～8 分
連絡先：島創平 cbz04630@pop21.odn.ne.jp

●神奈川

○キリスト教横浜集会

日曜礼拝：主に京急南太田近くの「フォーラム南太
田」にて、10:00～
安川文朗兄には月一度、Line による聖書講話を、又、
有賀実男兄には月一度、来浜の上聖書講話をお願い
致しております。
そして、講話者をお願いできない日曜日は、カール・
ヒルティ著『眠られぬ夜のために』（岩波文庫版）を
輪読会の形式にて、10 名を超えない参加者になりま
したが、礼拝を守っております。
連絡先：須川真明

●長野

○インターネット教会「ネットエクレシア信州」
当サイト「現代の預言」のページに「イラン攻撃と内
村鑑三・戦争廃止論」をアップ中です。
米・イスラエルによるイラン攻撃をどう受けとめ、ま
た向き合ったら良いのか。日露開戦を前に内村が発
した「戦争廃止論」を手がかりに考える試みです。
PC 又はスマホで「ネットエクレシア信州」と入力し
て検索し、ホーム画面の「A 最近の更新」から記事
を選択すれば、閲覧可能です。
連絡先：坂巻隆男 sakamaki@jade.plala.or.jp

○上伊那聖書集会

詩編とマルコ福音書をそれぞれの担当者を通して学び、また先人の先生方の聖書講義（録音）からも聖書を学んでいます。

日時：第 1・第 2・第 3 日曜日 10:00～11:30

場所：有賀宅（伊那市西箕輪 917-2）

連絡先：有賀実男

●山梨

○南アルプス聖書集会

日時：第 2・第 4 日曜日 10:30～

場所：山梨県南アルプス市小笠原 255

＊旧約聖書：歴代誌

新約聖書：ルカによる福音書

代表：加茂悦爾

●新潟

○新潟聖書研究会

日曜礼拝：毎日曜日 10:00～12:00

場所：対面（新潟市西区小針駅前葡萄の家）と Zoom
併用のハイブリッドで

＊第 1 日曜日はホセア書、第 2・3・4 日曜日は
ヨハネ黙示録を学んでいます。

＊熊本、静岡、石川県からの参加もあります。

参加希望の方は代表の二七教会までご連絡下さい。

連絡先：大西洋司 27kyoukai@gmail.com

●北陸

○金沢畝田聖書集会

日時：毎月第 1・第 3 日曜日 10:30～12:00

会場：金沢勤労者プラザ

金沢市北安江 3-2-20

＊第 1 は使徒言行録を山下が、第 3 は崎村恒夫・
広村暁が交代で担当し、聖書のメッセージを取り
次ぎます。

連絡・問合せ先：山下士郎 glory@m3.spacelan.ne.jp

●静岡

○第 61 回 静岡県下無教会合同集会

日時：10 月 18 日 10:00～14:00

会場：マークス・ザ・タワー 1905（清水）

講師：西澤正文

連絡先：西澤正文

○浜松聖書集会

日時：第 3 日曜を除いた日曜日 10:00～12:00

会場：クリエート浜松 22 号室など

連絡先：武井陽一

<特別集会>

9 月 13 日 講師 笹井あかね

11 月 29 日 講師 富井直子

○清水聖書集会

主日礼拝：毎日曜日 10:00～11:30

第 2 週 講話・小田弘平（元愛真高校教師）

第 4 週 講話・濱田淳（調理師）

第 1・3・5 週 講話・西澤正文（集会代表）

第 5 週 感話会・会食

会場：マークス・ザ・タワー 1905

静岡市清水区辻 1-2-1-1905

清水駅西口より徒歩 3 分

連絡先：西澤正文

●中京

○名古屋聖書研究会

日時：毎日曜日 10 時～11 時半

＊但し第 5 日曜日は休み

会場：名古屋市市政資料館

連絡先：三浦繁則

○名古屋聖書集会

日時毎月第 2・第 4 日曜日 10:00～12:00

会場：名古屋市千種区猫洞通 2 丁目 8 番地の 15

ビレッジ猫ヶ洞 13 号

連絡先：下澤悦夫（共同世話人）

●近畿

○第 22 回近畿地区無教会キリスト集会

日時：2026 年 8 月 25 日（火）～26 日（水）1 泊 2 日

場所：関西セミナーハウス（京都・修学院）

講師：工藤新三「イエスの十字架と復活」

（I コリント信徒への手紙 15 章 3-8 節）

那須佳子「主イエスの祈り・愛と励ましー
十字架と復活」（ヨハネ福音書を通して）

坂和優「アモス書」

申込期限：7 月 4 日（締切後の場合ご相談下さい）

連絡先：坂和優

○関西合同聖書集会共同墓地墓前礼拝・納骨式

日時：2026 年 10 月 12 日（月・休）13:00～

場所：奈良市三笠霊苑・共同墓地

納骨：故柚口富美子様（高槻聖書キリスト集会）

＊式後の懇談会はありません

○239 回関西合同聖書集会

日時：2026 年 11 月 3 日（火・休）

場所：エルおおさか

司会：大川四郎

講師：自由題・未定

田矢廣司・聖書講解使徒言行録第 4 回

午後：昼食・感話・懇談会

○大阪聖書研究会

日時：8 月は夏休みとし、9 月 6 日（日曜日午前）から再開します。

場所：従来とおなじく、大阪市立総合学習センター
（大阪駅前第 2 ビル 5 階）の会議室または研修
室です。

窓口負担：倉林幹彦

●中国

○岡山聖書集会

礼拝：第 2・第 4 日曜日 10:30～12:00

*マタイ福音書を学んでいます。

場所：岡山禁酒会館 2 階集会室
(岡山市北区丸の内 1-1-15)

*希望があればオンラインでの集会参加も可能です。

代表者・連絡先：香西信 shinkozai@gmail.com

*集会での聖書講話とキリスト教美術史の連載を掲載した『マラナ・タ』(月刊誌、現在 140 号)を発行しています。講読希望の方は香西宛に連絡下さい。

●四国

○愛媛

日時：毎週日曜日 10:00～12:00

場所：松山市民会館

代表者：小笠原明

○高知

日時：毎週日曜日 10:10～11:30

場所：高知県婦人会館

代表者：片岡典子

○徳島

①主日礼拝

日時：毎週日曜日 10:30～12:30

場所：徳島聖書キリスト集会場

代表：吉村孝雄

参加者：約 60 名(集会場に 10 名、県内外のオンライン〔スカイプ〕参加者約 50 名)

②夕拝(スカイプによるオンライン集会)

日時：毎月第 1・第 3 火曜日 19:30～21:00

参加者：12～15 名

③天宝堂集会

日時：毎月第 3 金曜日 20:00～21:30

場所：天宝堂(はり治療院)徳島市応神町

責任者：網野悦子

参加者：10 数名(会場参加とオンライン参加)

④海陽集会(オンライン)

日時：毎月第 2 火曜日 10:00～12:00

場所：讃美堂(数度宅鍼灸治療院)海部郡海陽町

責任者：数度勝茂(すどう かつしげ)

参加者：10 数名

⑤北島集会(毎月 2 回)

日時：第 2 月曜日 13:00～14:30(録音による学び)

第 4 火曜日 13:00～14:30(オンライン)

参加者：8～10 名(オンラインのみ)

場所：戸川宅 板野郡北島町

責任者：戸川恭子

●九州

○福岡聖書研究会・定例集会

礼拝：毎週日曜日 10:00～12:00

会場：アクロス福岡(福岡市中央区天神 1-1)ほか(約 15 名)、Zoom 同時配信(約 15 名)

連絡先：秀村弦一郎

○福岡聖書研究会・特別集会(Zoom 同時配信)

①8 月 23 日(日) 10:30～14:00

島しづ子牧師(沖縄うぶさと伝道所)を迎えて、福岡城東橋教会との合同礼拝、ランチ会を予定しています。

会場：城東橋教会(中央区浄水通 3-8)

講話内容：未定

8 月 19～25 日に、戦争準備が進む日本の最前線・沖縄からの報告として、写真・絵画展を開催(福岡アジア美術館)。

22 日(土)には島牧師と沖縄の写真家・山本英夫氏による平和講演会も計画されています。

②9 月 20 日(日)

矢田部千佳子氏を迎えての集会

を予定しています。(以上の連絡先は秀村)

○別府聖書研究会・定例集会

礼拝：毎週日曜日 10:00～12:00

会場：北的ヶ浜公民館(別府市北的ヶ浜町 3-35)

連絡先：中村陽一

○別府聖書研究会・クリスマス集会

日時：12 月 20 日(日)

会場：北的ヶ浜公民館(別府市北的ヶ浜町 3-35)

*秋月正明氏と佐藤信夫氏の講話に続いて、全員のクリスマス感話を伺います。

○那覇聖書研究会

集会：毎月第 1・第 3 日曜日 10:15～13:00

会場：那覇市安謝の環珞

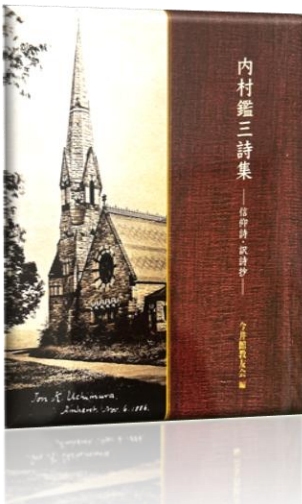
連絡先：友寄隆静 tomoyose1947@gmail.com



ヒマワリ(秀村弦一郎画)

事務局便り

特定非営利活動法人（NPO）の今井館教友会では 6 月 21 日に、正会員による定時会員総会が開かれました。そこにおいて 2026 年 7 月 1 日からの 2 年間、今井館教友会の運営を担う役員（監事と理事）が承認されました。うち新理事は 2 名です。理事長は副理事長だった月本昭男氏に決まりました。ご挨拶の辞が今号の『今井館ニュース』（第 65 号）に掲載されております。



『内村鑑三詩集 — 信仰詩・訳詩抄』という 128 頁の小型の本を今年の 6 月に作りました。今井館の本駒込への移転に際して、あるいはその後の機会に、今井館教友会へご寄付やご支援を下された方、クリスマスやサマー募金のお願いに応じて下さった方、さらに維持会員として前年度の会費を納入してくださった方々に、感謝の思いを込めて、贈呈いたしました。1 年前に作った『内村鑑三のことば』と同じく、シングルカット社からの出版です。ともに市販されておりますので、お近くの書店経由で、あるいはネット書店で注文が可能です。なにとぞご愛顧ください。

キリスト教の礼拝時に奏楽を受け持ってくれた楽器として、リードオルガンを懐かしく思い出される方も多いことでしょう。今井館聖書講堂には 2 台のリードオルガンがあります。独立学園の榎本様子先生が寄贈して下さったものは 1912 年製、独立伝道者の政池仁先生が寄贈して下さったものは 1929 年製です。ともに、お上手な方が演奏なさると、今でも美しい音を響かせてくれます。今井館では、博物資料として手の届かないところに安置するのではなく、大切に扱いながら、必要な修復も行いつつ、これからもこれらのオルガンを実際に演奏し続けてゆきたいと考えております。

リードオルガンの話題に関連して、映画『「風琴」～あるリードオルガン修復家のあしあと～』をご紹介します。明治時代に木製の足踏みオルガンは「風琴」と呼ばれていました。オルガン修復家の和久井輝夫氏、オルガニストの中村証二氏らが出演、黒瀬政男氏が監督されたこのドキュメンタリー映画の上映会を、今井館聖書講堂で 8 月 15 日（土）午前と午後に計画しております。詳細は今井館にお問い合わせください。

（加納孝代 かとう たかよ）



リードオルガン
（Unsplash よりダウンロード）

維持会員募集のお知らせ

今井館聖書講堂と今井館資料館の継続的な運営にお力をお貸しください。

それには、今井館教友会の「維持会員」になる、あるいは、会員にはならないが、折々に寄付をする、という二つの方法があります。

1. 維持会員になる

維持会員には会費の納入方式により 2 種類があります。(1) X, Y, Z, T 会員と、(2) A, B, S 会員です。

(1) はご本人のゆうちょ銀行口座から、定額を毎月自動的に今井館教友会に振り込む形

(2) はご本人のゆうちょ銀行口座から 1 年に 1 回、ご自分で今井館教友会に振り込む形

* X, Y, Z, T や A, B, S は、金額による種別です。

詳細は今井館教友会へお問合わせください。問合わせ先および、入会のお申込み先は、このページの左下の枠内に記してあります。今井館の事務室の電話での対応曜日は月、水、金のみですが、月、水、金であれば祝日・休日でも対応いたします。

2. 維持会員にはならないが、折にふれて寄付をする

今井館教友会では年に 3 回『今井館ニュース』を発行しています。そこに「払込取扱票」（いわゆる郵便局の振込用紙）を同封し、夏は「サマー募金」、冬は「クリスマス募金」という名前で、金額任意のご寄付をお願いしています。時期に関わらず、ご都合の良い時に振り込んで下さる場合も、「一般寄付」としてありがたく頂戴いたします。

3. 維持会員となって、さらに折々の募金にも応じる

このような形でお支えいただけましたら、さらにありがたく存じます。

特定非営利活動法人である今井館教友会への寄付（維持会員としての会費納入をふくむ）は、所得税法上の寄付金控除の対象ではありませんが、皆様の自由な発意によるご寄付を何とぞよろしくお願い申し上げます。

今井館聖書講堂と今井館資料館の由来

今井館聖書講堂は内村鑑三が当時住んでいた新宿の自邸の敷地内に建てた聖書講堂の三代目にあたる建物です。今井樟太郎氏の遺志に基づく寄贈を記念して「今井館」と名付けられました。その後目黒区中根に移って 85 年の時を経て、2021 年に本駒込に移転しました。1 階の資料館には内村鑑三ゆかりの書籍や雑誌が数多く揃えられています。2 階の聖書講堂では年間を通じてさまざまな活動が行われています。

今井館教友会は、内村鑑三と彼に連なる人々が、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の実現を願って生きた生涯とその業績を、広く社会に公開することを目的として、聖書講堂と資料館の運営にあたっています。ご理解とご支援をお願い申し上げます。

●前号の訂正：2 ページ目次のうち「内村鑑三がベルにおくった柏会の写」を、「柏会写真」と訂正。

「今井館ニュース」第65号 2026年7月31日

(年3回発行 4月、7月、11月)

発行人：特定非営利活動法人今井館教友会

理事長 月本昭男

編集人：岡崎みのり、加納孝代、川中子義勝、

志知道子、山下明、廖本恩

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-11-15

Tel&Fax : 03-6277-5669 Telは月・水・金のみ

メールアドレス 304kyoyu@imaikankyoyukai.or.jp

ホームページ <https://www.imaikankyoyukai.or.jp>

郵便振替口座 00170-2-83102

加入者名 特定非営利活動法人今井館教友会

編集後記

6 月 21 日に催された、特定非営利活動法人・今井館教友会の定時会員総会において、加納孝代前理事長と川中子義勝前副理事長は、10 年間の理事任期を全うして退任しました。二人とも、今井館ニュースの編集委員として、企画・編集、また各地の皆様との連絡に携わって参りましたが、これまで様々な形でご協力、ご支援をいただきましたことに、心より感謝を申し上げます。理事の任は退きましたが、二人とも協力者の立場で今井館ニュースの編集にはなお携わって参ります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

今回 65 号の発行に際して、新たに廖本恩さん、岡崎みのりさんに原稿の配置や入力の作業において、ご助力をいただきました。(Y.K.)